「いなべで暮らせてよかった」と、誰もが思えるように

# 地域を愛する人

皆さんは、助けてもらいたいとき
頼れる人が近くにいますか。
私たちの住む地域には
「困っている人はいないか」
「少しでも誰かの役にたちたい」と
行動する人たちがいます。

頼って、頼られて、
お世話して、お世話になって、
支え合うことが
当たり前にできる地域を
一緒に作っていきませんか。

## あじさい まごころ隊 ～バトンタッチ送迎～

体が不自由だったり、運転ができなかったりして行きたい場所に行けない人の力になりたい。そんな思いから「あじさいまごころ隊」を発足。まずは試運転で自宅から「四季の家」まで、交通弱者の送迎支援「バトンタッチ送迎」を９月にスタートしました。

目標を「自治会単位での買い物支援」に掲げ、活動を続けています。

送迎支援の参考にした、滋賀県日野町との交流会

現在、メンバーは９人。活動を広げるために、仲間を増やしていきたい。市が実証実験で導入したシェアカーを利用した送迎も始めた。

シェアカーステーション開設式



## いつかは自分も不自由なことができてくる
## 動ける間は役に立ちたい

北勢町 小森 康好さん
数年前に自分と夫の両親４人の介護を経験。裁縫が好きで、着る服のほとんどを手作り。あじさいまごころ隊で送迎のボランティアに参加している。

### 助けてくれる人がいない人の助けになりたい

私はおかげさまで、親を介護することができました。でも、地域には助けてもらえない人、不自由な人がいます。私で良ければお手伝いしたい。介護中にはたくさんの人に協力してもらったから、私も困っている人を助けたい。

### お互いさまの気持ちで

あじさいまごころ隊の送迎を利用してくれる人は「お世話かけて申し訳ない」って言うんです。そんなのお互いさま。何にも気にせんと頼ってくれたらいい。

お迎えに行くと、お出かけできることをうれしそうに待っていてくれて。運転ができないと、家に閉じこもりがちでしょ。外に出る機会が増えると、おしゃれに気を使って、友達とおしゃべりしたりして気持ちが明るくなる。そんな人が一人でも増えてほしい。

お迎えで。会えてうれしい

### 自分にできることだけ

無理はしません。自分の体の調子が良いことが一番です。送迎の支援も、できる範囲で活動しています。

### 毎日がいきいきとする

いろんな活動に参加し、時間の管理をするようになって、生活に張りが出ました。

たくさんの笑顔に会えるのが何よりうれしい。これから先の人生、誰かの役に立って生きていきたいね。あんなことしとる人おったなーと、思ってもらえたらええわぁ。

自身も足を悪くしている小森さん。利用者の気持ちになって乗り降りもこまやかに気を使う

活動を始めたきっかけはさまざま。自分が楽しいと思えることを

# ボランティアって楽しい!

「誰かの笑顔を見るってうれしい」「誰かのためが自分の喜びになる」と話す３人にボランティアの魅力を聞きました。

## 「いなべを良くしたい」と同じ思いを持つたくさんの仲間がいることがうれしい

活動を地域へ広めるためにビラを配り、声をかける。「まず、活動を知ってもらわないかん」

大安町 小林 正徳さん

夫婦で大病を経験した小林さん。頼りにする人が、ずっとそばにいてくれるとは限らないと知った。気軽に助け合える地域にしたいと、災害ボランティアから地域の子どもの見守りまで、さまざまな活動に参加している。

### やってみたら楽しい

ボランティアには全然興味がなかった。妻の付き添いで、地域で開かれている講座をちょっとのぞいてみたのが始まり。参加してみると、俺にもできるやんって。楽しくて、いろんな活動に行くようになった。

### たくさんの人と知り合える

いろんなボランティアに顔を出すと、声をかけてくれる知り合いが増えた。仲間ができてつながりが広がる。続けていると「私も子どもがいろんな人のお世話になったから、一緒にやらせて」と言ってきてくれる人がいる。気持ちが伝わってると思うとうれしい。

### 一歩でも半歩でも

やってみたいって思ったら、半歩でいいから踏み出してほしい。俺もそうやけど、喜んで協力してくれる人がたくさんいるから。みんなで少しずつ助け合える地域にできたらいいなぁ。

## 子どもたちのあいさつが励み

通学路の草刈り。「草があると子どもたちが端に寄れん。車がよく通って危ないから」

北勢町 坂口 英男さん

20年間続けている地域のごみ拾いや草刈り。始めたきっかけは、自治会長をしていた頃、「ごみ拾いでもしてみては」と妻からの一言。始めた当時、２日に１回のごみ拾いでごみ袋２袋がいっぱいになった。

### 好きなことだから続けられる

気になったらすぐ拾う。ごみ拾いをしてきれいになると気持ちいい。私は人に合わせるのが苦手。ごみ拾いや草刈りは自分のペースでできるのがいい。

### 自分自身のためになる

たばこをやめて草刈り機の燃料代になった。草刈り機の歯は、こうやって続けてるとみんながくれる。お金をかけずに、体を動かせて運動になる。

### いろんな人への感謝の気持ちがうまれる

いろんな人が声をかけてくれてつながりができる。その人たちに助けられることがある。草刈り機の歯をくれる人、汗だくの服を洗ってくれる妻。いろんな人の世話になってる。ありがたい。

## 人と話をするのが好き

員弁町 近藤 つた子さん

もともと近所の人のごみ出しや送迎などのお手伝いをしていた近藤さん。民生委員になって「私にもできる」と自信がつき、さまざまな活動に参加するように。見せてくれた手帳は、活動のスケジュールでいっぱい。

### いつも笑顔で楽しくいられる

送迎でも、子どもをお世話するのでも、私がお世話させてもろとるって気持ちで接するの。そう思えるといっつも笑顔でいられて、元気がもらえるの。

### ボランティアって難しくない

「つた子さんみたいにはできないわ」って言われるけれど、体一つで誰にでもできます。臆病にならないでやってみて。笑顔が見られるって本当に楽しいから。

一緒に遊ぶ。「ボランティアをしているおかげで子どもたちに会えるのも楽しい」

## 図書館で読める本

ボランティアって
発想は自由。
自分に合う活動が
見つかるかも。

「お手伝いしましょうか？」うれしかった、そのひとこと

高橋うらら文、深蔵絵　講談社

さまざまな人たちに対するお手伝いの仕方を解説。手助けを望む人からのメッセージも紹介。

おたがいさま れんげ荘物語

群ようこ著　角川春樹事務所

お隣さんと助け合いながら毎日を生きる。ささやかな幸せをかみしめる日々。

はじめよう！ボランティア まちづくりとエコ活動

長沼豊監修　廣済堂あかつき

まちの美化、エコ活動、祭りやイベント。ボランティアとは、だれでも、身近なところでできるもの。

いっしょにいきるって、なに？

オスカー・ブルニフィエ文、西宮かおり訳、フレデリック・ベナグリア絵、重松清日本版監修　朝日出版社

「いっしょにいきる」とはどういうことかを楽しく考える絵本。「ひとりっきりでいきてゆきたい？」など６つの問題へのいろんな考え方を紹介。

仲間がいると大きな力に

# 各町で困りごとに取り組む

第 1.5 層協議体（1.5 層）という言葉を知っていますか。第 1 層を市、第 2 層を自治会と位置づけ、1.5 層は町単位で話し合いなどを行っている組織の呼び名です。1.5 層では、自由な発想で自分たちの町を良くしていこうとさまざまな試みを続けています。

1.5 層の取り組みは、「地域にあったらいいなぁ」を形にする活動です。地域で暮らす自分たちの目線で感じたまま話し合い、何ができるかを考えています。

「人とのつながり」が薄れてきている今日この頃。誰に勧められたわけでもなく「地域のためにできることをやろう」と行動する皆さんの姿には心が動かされます。

社会福祉協議会では、1.5 層の皆さんの活動を応援し、活動の輪が広がるサポートをしています。

「地域のために考えてみたいなぁ」と思う人は 1.5 層の活動を一度のぞいてみてください。

問 社会福祉協議会 T 41-2945

地域福祉課
池村 俊子さん

藤原地区 1 ～ 7.「ふれあいまつり in ふじわら」でこままわしやあやとりなど昔の遊びで世代間交流。藤原音頭や山口龍華太鼓も披露
員弁地区 8 ～ 11. 資源ごみの回収。年齢に関係なく、車に乗れずごみ捨てが困難な人の家をまわる

大安地区 12.13.16. イオン大安店での福祉バス利用者への声かけ 14.15.17. 高齢者や小さな子どもを連れた人の荷物運びをお手伝い。資源ごみの回収
北勢地区 18.20 ～ 22. 青川沿いの清掃活動 19. 福祉バスを利用しやすいように作成した「福祉バス便利帳」

## 地域でのつながりを大切に

藤原地区「藤原の明日を考える会」

まずは自分たちの地域に関心を持ってもらえたらと「ふれあいまつり in ふじわら」を開催。11 月に開いた 2 回目は約 150 人が参加し、大成功でした。

子どもから高齢者までみんなで楽しむことが、助け合いにつながると考えています。

藤田 進さん

## 頼れる人がいる地域へ

員弁地区「住みよい地域を守る会」

住みよい地域を守る会は、地域について一緒に考える交流の場になっています。

活動を広げることで、困っている人が声をあげやすい環境を作っていきたいです。

活動には参加できない人も何か困っていることがあれば教えてください。

前田 持さん

## 楽しみながらできる活動を

大安地区「大安たすけあいたい」

会議には出なくても、活動は参加する人。外の活動は苦手でも資料作成ができる人。無理せず、自分が楽しめることで参加しています。仲間といると、「私にもできるかも」と思えてきます。

私たちと一緒に楽しみながら活動を広めませんか。

松宮 卓さん

## 仲間と共に地域を良くする

北勢地区「地域で支え合う会」

地域で支え合う会は、みんなで意見を出し合い、地域について知る場になっています。仲間と共に、少しずつでも活動を続けることで、多くの人に広めていきたい。若い世代の人たちにも地域のことに関心を持ってもらい、交流していけたらと思います。

杉野 紀弘さん

手遊び、体操、歌を通して、誰もが楽しめる
集いの場「四季の家」

手芸でたくさんの人を笑顔に変える
「手芸ボランティアピエロ」

子どもたちの通学の安全を見守る
安達あさ子さん、田中義幸さん（北勢町）

地域のごみ集積所をいつもきれいに
「あじさいの会」

ふれあい弁当や月に一度の地域食堂で、まごころを込めた
食事をふるまう「ランチサービス若葉」

広報誌を音訳したCDを、視覚が不自由な人へ届ける
「朗読ボランティアほおじろ」

地域の人からもらう愛情をいつかは自分も返したい
４人の子どもを育てるママ　原口優希さん（員弁町）

あなたの愛がみんなを笑顔に

# 私にできる　地域愛

「子どもたちが危ない目に遭わないように」
と通学路を見守る人。
「一人寂しくしている人はいないだろうか」
と集える場所を作る人。
「きれいな町にしたい」とごみ拾いをする人。
「今日はあの人見かけないけれど、元気かしら」
と誰かを気にかける人。

地域にちょっと目を向ければ、たくさんの愛があり、
気付かないところで支えられていることがあります。

いなべ総合学園高等学校の生徒に、地域での活動について話す
藤田進さん（藤原町）。若い世代とのコミュニケーションを図り、
地域について共に考えることも始めている

家族のような支え合いを地域へ。
地域との世代を超えたつながりを大切にしている
親子４世代で暮らす 藤田さん家族（藤原町）

## 「ありがとう」感謝の気持ち が地域を愛する最初の一歩

赤ちゃんからお年寄りまで
つながる、つなげる居場所作りを
「いなべ子育てネットワークいなこね」

子どもたちが自然と触れ合える場所を残したい
里山の環境を整備する「いなべの里山を守る会」

地域の伝統を守り、人から人へ伝える「山口龍華太鼓」

### 地域の愛をつなげて、広げて

取材で目の当たりにした、ボランティアをする人たちの、何の見返りも求めず、誰かを笑顔にしたいと行動する姿。どうしてそこまでできるのか。取材を重ね、何度も活動に参加することで、地域の人と触れ合う楽しさや喜びを知ることができました。

活動する人たちは、見ず知らずの人を自然に受け入れ、穏やかな笑みを向けてくれます。それを受け取った人も笑顔を返す。お互いの存在を認め、生きる喜びを与え合う。そんなささやかなことが、誰かの生きる力になることを教えてくれました。

皆さんは今、誰を笑顔にしたいですか。

笑顔のために何ができるでしょう。

2023年の始まりに、誰かを笑顔にする新しい一歩を踏み出してみませんか。